

金融リテラシー1万人調査の概要

－「投資をしている人」と「投資をしていない人」の違いとは－

2018年8月

MUFG資産形成研究所

調査概要

- (1) 調査名： 金融リテラシー1万人調査
- (2) 調査方法： リサーチ会社を利用したWEBアンケート
- (3) 調査期間： 2017年12月1日（金）～2017年12月4日（月）
- (4) 調査対象： 企業勤務者8,500名（企業規模300人以上の会社）および、
公務員1,000名、専業主婦・主夫500名の合計10,000人を対象
- ※ 企業勤務者（8,500人）の構成比は、総務省「就業構造基本調査」（平成24年）における正規職員・従業員300人以上企業と同分布となるよう割付。
- (5) 本調査設問数： 38問

<全体>

	男性		女性		合計	
30歳代以下	3,102人	31.0%	1,348人	13.5%	4,450人	44.5%
40歳代	2,339人	23.4%	588人	5.9%	2,927人	29.3%
50歳代以上	2,090人	20.9%	533人	5.3%	2,623人	26.2%
合計	7,531人	75.3%	2,469人	24.7%	10,000人	100.0%

<企業勤務者>

	男性		女性		合計	
30歳代以下	2,984人	35.1%	1,134人	13.3%	4,118人	48.4%
40歳代	2,077人	24.4%	417人	4.9%	2,494人	29.3%
50歳代以上	1,630人	19.2%	258人	3.0%	1,888人	22.2%
合計	6,691人	78.7%	1,809人	21.3%	8,500人	100.0%

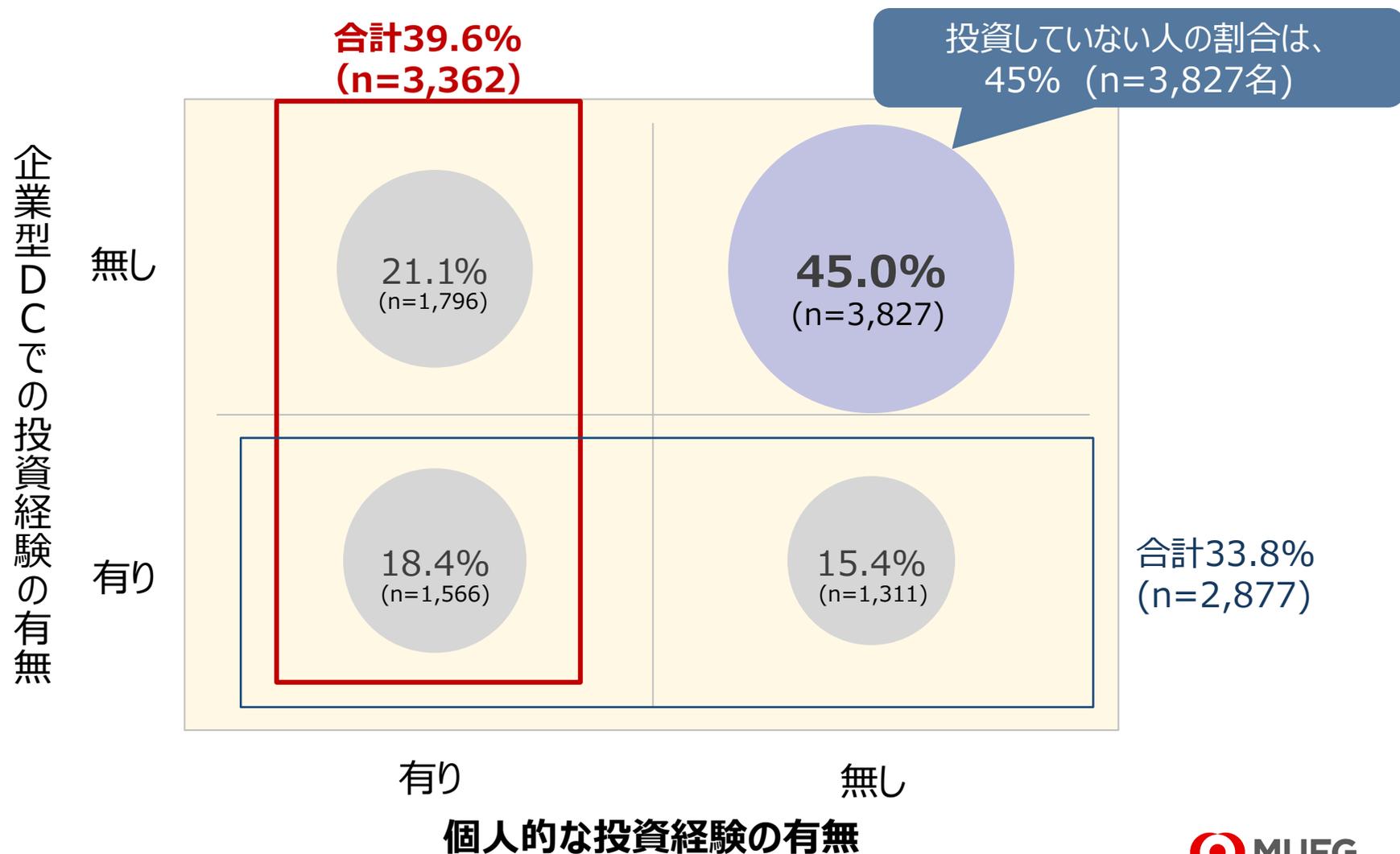
金融リテラシー1万人調査実施の背景

- わが国では、少子高齢化に伴った公的年金のマクロ経済スライドの影響や、所得代替率の低下などから、今後の社会保障における自助努力の比重が高くなります。その一環として、国民家計の資産形成において、その一部を投資商品に置いておくことは、資産の分散という観点で望ましいと思われれます。
- 三菱UFJ信託銀行では、過去3年間、定期的に、金融リテラシーの調査を目的として一般の消費者1万人にアンケート調査を実施してきました。当研究所では、この調査を承継し、WEBアンケートであるバイアスを認識しつつ分析をして参りました。3回目にあたる今回のアンケートでは、**投資を身近で馴染みやすいものにするにはどうすれば良いのか、そのヒントを得ることを意図しました。**
- その結果、投資未経験の皆さまにとって、投資は自分とは関係のない、自分の生活とはかけ離れたもの、というイメージが強いことが浮かび上がります。「人生100年時代」を迎えるにあたっては、多くの人にとってすでに貯蓄が生活に根づいているように、投資を普段の生活の中に定着させていく工夫が大切ではないかと考えます。
- 本レポートでは、**特に企業勤務者（8,500名）**について、「投資をしている人」と「投資をしていない人」の違いに着眼点を置き、調査結果から得られる示唆をご紹介します。

投資経験有無別のマトリクス

投資経験有無の詳細（企業勤務者：8,500名）

- 本調査では、企業型DCでの投資経験と個人的な投資経験を区分して調査をしています。
- 本レポートでは、「個人的な投資経験」につき分析を実施しています。



投資実施までの5つのステップ

「投資実施までの5つのステップ」の調査

- 本調査では、個人的な投資経験について、投資実施までの段階を「5つのステップ」に区分し、アンケートを実施しています。
- 本レポートでは、「投資実施までの5つのステップ」を活用し、分析しているページがあります。

1

投資未検討

投資をしようと思ったことはない、投資用口座の開設を検討したことはない

2

投資検討

投資用口座の開設を検討したことはあるが、実際には手続きをしなかった

3

口座開設
手続き開始

投資用口座の開設の手続きを開始したが、途中で止めてしまった

4

口座開設
手続き完了

手続きを完了して投資用口座を開設したが、投資しなかった（投資していない）

5

投資実施

開設した投資用口座で、実際に投資を実施したことがある

※各スライドでご紹介しているアンケートの回答者について、上記番号(1~5)でお示ししているページがあります。

例) 「回答者：2 3 4 5」と記載している場合、2(投資検討)、3(口座開設手続き開始)、4(口座開設手続き完了)、5(投資実施)の人が回答しているアンケートであることをお示しています。

目次

1.	本レポートの要旨	P.6
2.	投資をしていない人が抱いている「投資のイメージ」	P.9
3.	投資を検討または開始したときの動機	P.17
4.	ライフイベント(子どもの教育・住宅購入・老後の生活等)と投資の関係性	P.21
5.	学習・情報収集と投資との関係性	P.25
6.	インターネットやスマホのアプリと投資の関係性	P.31

1. 本レポートの要旨

「投資をしている人」と「投資をしていない人」の違いとは①

投資を始めるまでには3つのハードルがある。そのハードルを下げるには…

投資を始めるまでの3つのハードルと対応策

＜投資未経験者が持つ投資のイメージ＞

投資は生活とかけ離れた「特別なこと」

3つのハードル

意識

「まとまったおカネがないと
投資ができないのでは…？」
「専門的な知識が必要！」
「損をするのが嫌だ！」

手続き

「手続きが面倒！」
「時間がない！」

商品選択

「何に投資したら
良いの…？」

対応策

- 「少額・積立投資」の効果と方法の理解
- 投資のポイントは「長期・継続」であり、貯蓄と同様、生活の中で誰でも簡単にできることであると認識すること

インターネットやスマホアプリの活用

あらかじめ分散投資・リスク分散が行われた商品(バランス型投資信託等)であれば、安心して投資できると認識すること

投資が身近な存在に

「投資をしている人」と「投資をしていない人」の違いとは②

投資をより身近なものにするためのヒント

現在の生活や将来のライフイベントとの関係

①現在の生活と投資の関係

「株主優待」など、生活に密着し、目に見える利益と結びつくと、投資を始めやすい

②将来のライフイベント(子どもの教育・住宅購入・老後の生活等)と投資の関係

- 投資は、資産形成をする上での資金計画の一部
- 自分のライフイベントのための資金計画の検討が、投資に繋がる

学習経験の機会は大事に

事前の学習経験と投資の関係性

- 投資に関する学習経験を積むと、実際の投資に繋がる傾向がある
- 会社での研修等、受動的な学習も有効

2. 投資をしていない人が抱えている「投資のイメージ」

投資を始めるまでの3つのハードル

「意識」のハードル

「まとまったおカネがないと投資ができないのでは・・・？」

「投資するには専門的な知識が必要だ！」

「損をするのが嫌だ！」

「手続き」のハードル

次のステップとして、「手続きが面倒！」「時間がない！」という感覚

「商品選択」のハードル

最後に商品選択の課題が出てくる、「何に投資したら良いの・・・？」

口座開設の検討をしなかった理由

約半数の人は、「知識不足」「損をするのが不安」と回答

- 投資を検討したことがない人たちの中で、約3割の人は「そもそも投資に興味がない」
- また、約半数の人は「知識不足」「損をするのが不安」と感じている。

所感

多くの人たちは、投資を始めるには豊富な知識が必要と感じており、自分とは縁遠い存在だと感じているのではなかろうか。

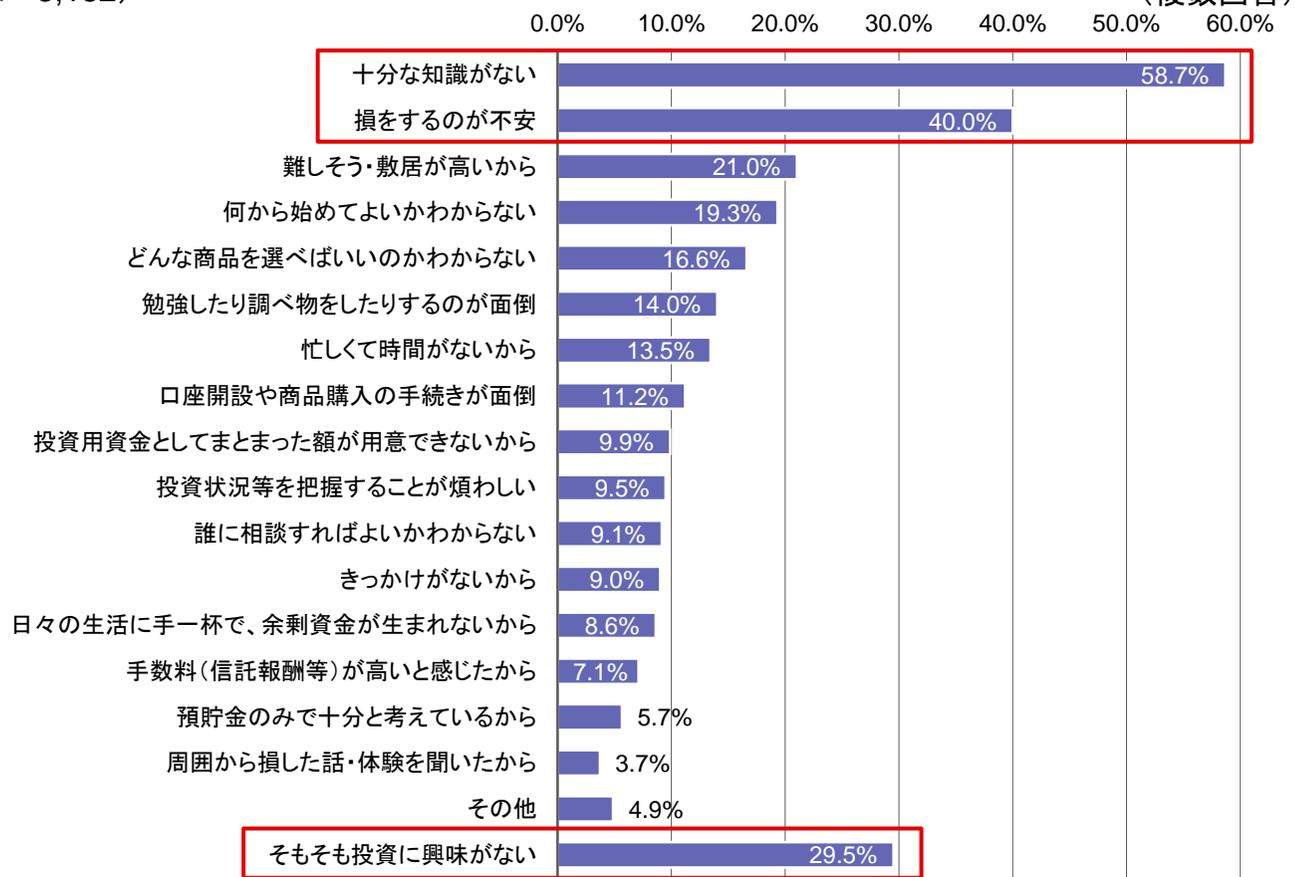
口座開設の検討をしなかった理由

(回答者) 企業勤務者のうち、個人的な投資経験^{※1}について「投資（口座開設）を検討したことがない」を選択した人

1

(n=3,182)

(複数回答)



※1: 企業型DCでの投資経験を除く

投資口座開設を検討した、自身の環境変化に関するきっかけ

半数以上が「まとまった資金ができたから」投資を検討し始めている

投資を検討・実施した人の中で、口座開設検討のきっかけとして、半数以上が「一定以上のまとまった資金（預貯金等）ができたから」と回答。

所感

- ①退職金などのまとまった資金がないと投資できないと思う人が多い。
- ②「少額からの積立投資」が可能であることを理解することが投資への第一歩。投資への敷居を低くすることが大切。

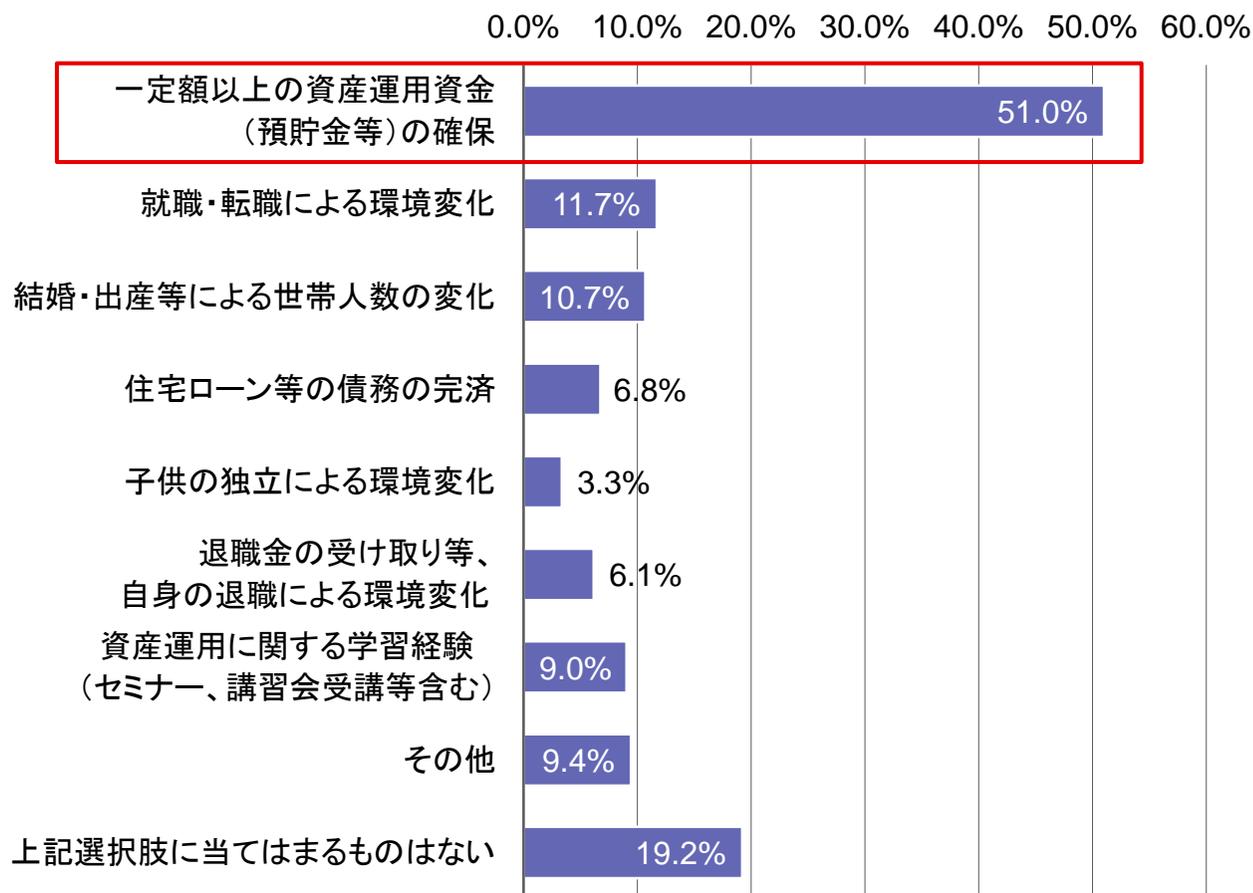
投資口座の開設を検討した自身の環境変化に関するきっかけ

(回答者) 企業勤務者のうち、個人的な投資経験^{※1}について「投資（口座開設）を検討したことがない」以外を選択した人

2 3 4 5

(n=5,318)

(複数回答)



※1: 企業型DCでの投資経験を除く

実際に口座を開設したが、投資性資産の取引を実施していない理由

「知識不足」「損をするのが不安」に次いで、「商品選択の難しさ」「忙しさ」の割合が高い

- 口座開設した人の場合、口座開設を検討しなかった人（11頁）と比べ、投資をしていない理由として「知識不足」「損をするのが不安」を挙げる人は減少。
- 一方で、「商品選択」「忙しさ」を理由に挙げる人が増加。

所感

実際に具体的な金融商品を選択する段階になると、「商品選択」の難しさを感じる人が増える。
また、「忙しさ」を理由に商品選択に至らない人は、そもそも投資の必要性への認識が低いと思われる。

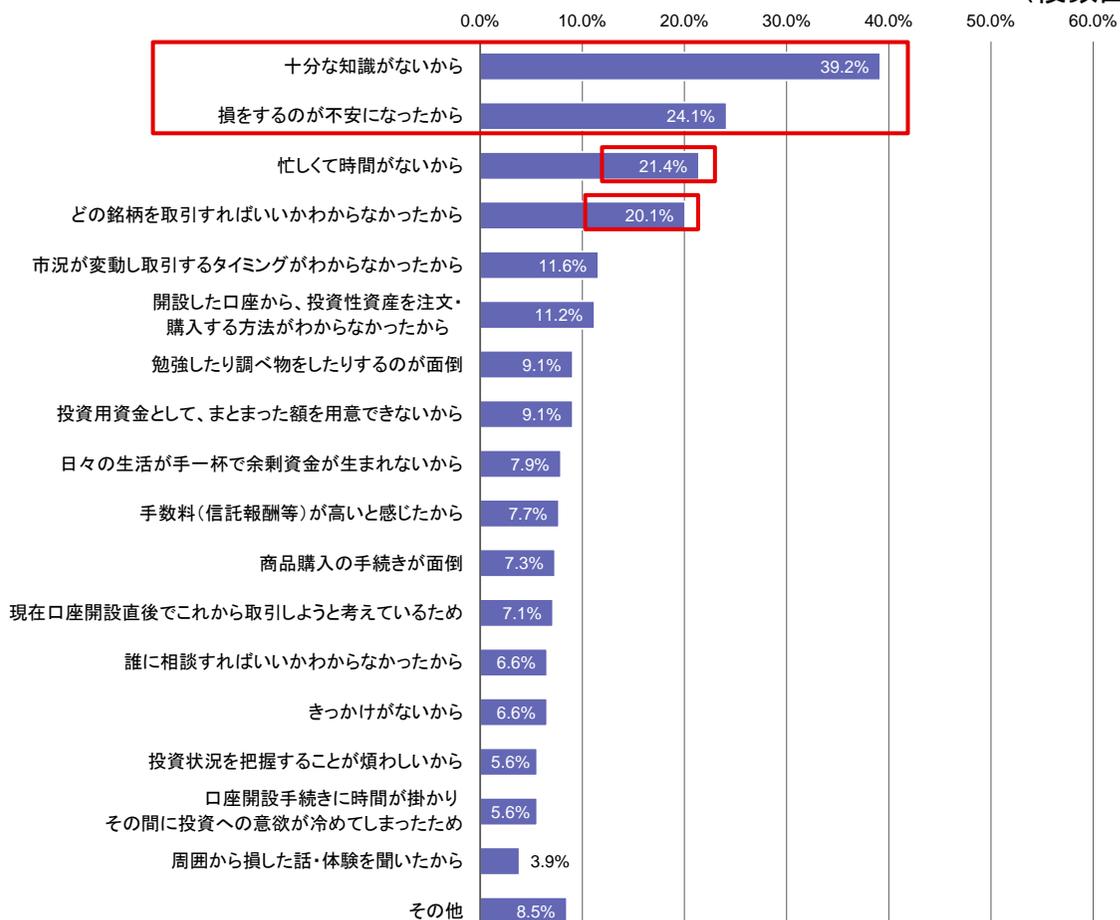
実際に口座を開設したが、投資性資産の取引を実施していない理由

（回答者）企業勤務者のうち、個人的な投資経験^{※1}について「手続きを完了して投資用口座を開設したが、投資しなかった（投資していない）」を選択した人

4

(n=518)

(複数回答)



※1: 企業型DCでの投資経験を除く

どのような商品・仕組みがあれば、投資を始めるか

「損をしても気にならない程度の少額から投資ができる」商品が望まれている

投資をしていない人たちが
投資を始める要素は、

- 「損しても気にならない少額」
- 「おつりやポイントでの投資」
- 「内容を知らなくても安心できる商品」

所感

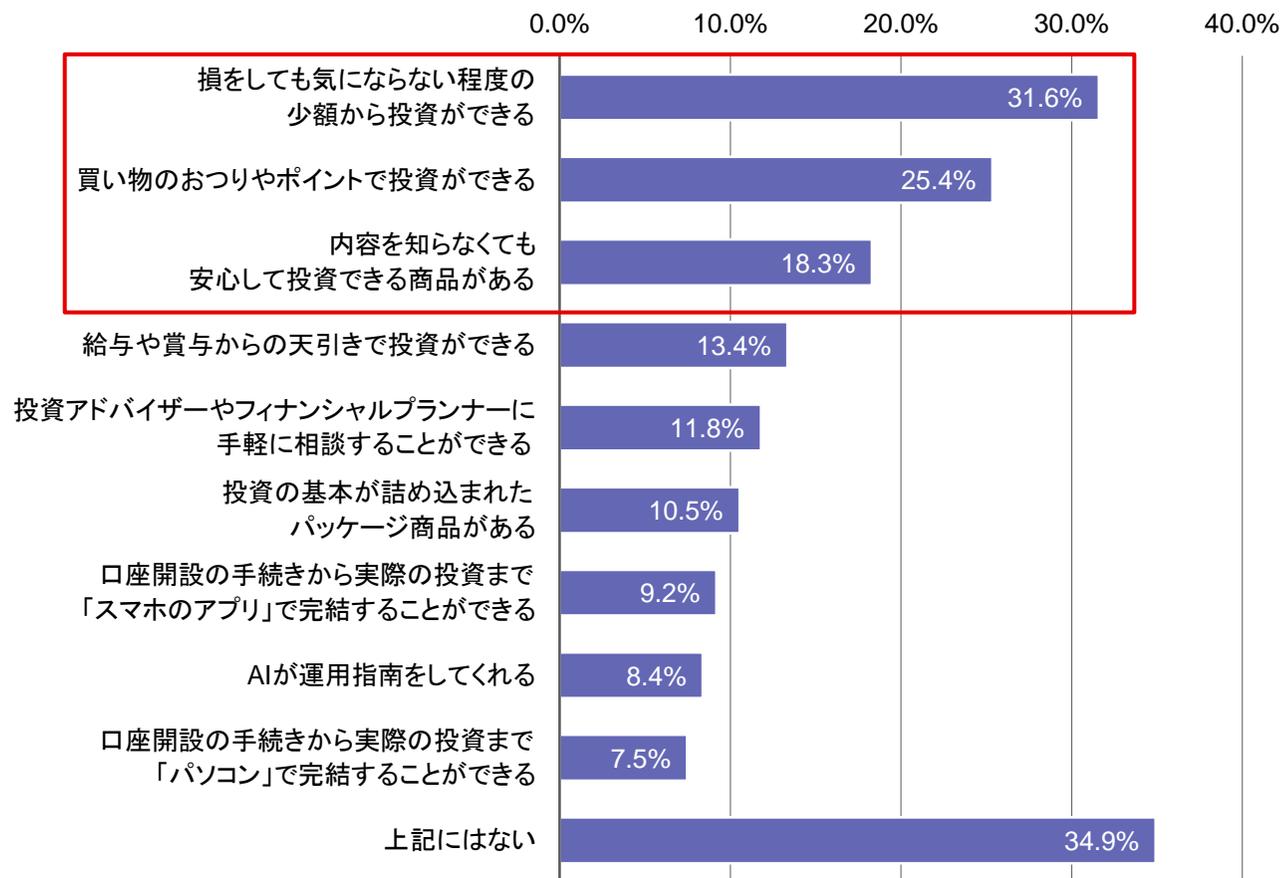
- ① 損の気にならない少額から始められる積立投資が受け入れられやすい。
- ② 「安心」の定義は人それぞれだが、例えば投資対象を分散することによりリスクが逓減する商品や下方リスクを抑制した商品等の認知が進めば、投資に繋がる可能性が高まる。

どのような商品・仕組みがあれば、投資を始めるか

(回答者) 企業勤務者のうち、個人的な投資経験^{※1}について「開設した投資用口座で、実際に投資を実施したことがある」以外を選択した人 ① ② ③ ④

(n=5,138)

(複数回答)



※1: 企業型DCでの投資経験を除く

投資口座開設を検討するきっかけとなる外部からの働きかけ

知人・親族からの勧めや、金融機関のキャンペーンがきっかけとなっている

「知人・親族等からの勧め」、
「金融機関の広告・キャンペーン」あるいは「職員からの勧め」等の外部からの働きかけも、口座開設の検討を始めるきっかけの一つ。

所感

「自身の環境変化」(12頁)程の影響はないものの、「外部からの働きかけ」により口座開設の検討を始める人も一定程度存在する。

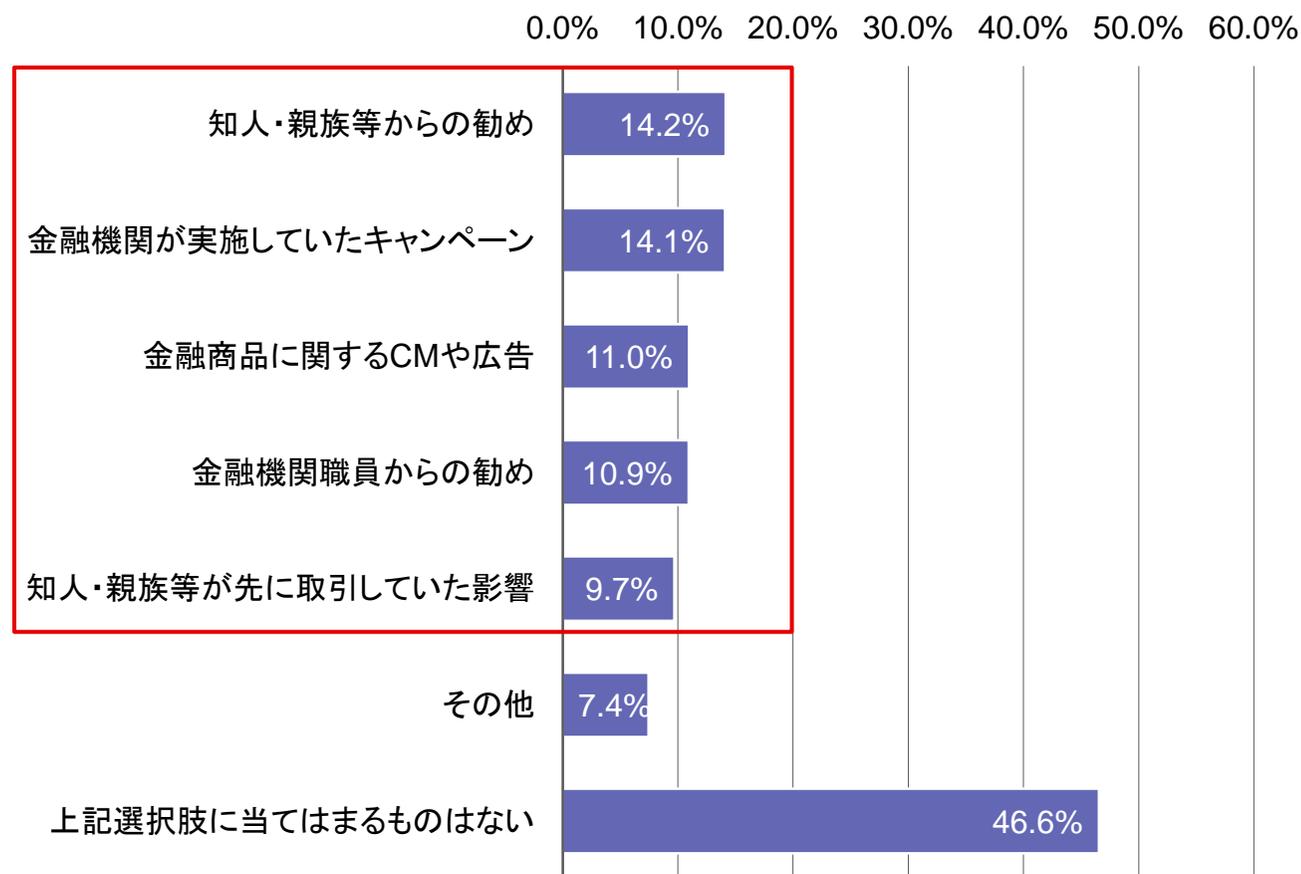
投資口座の開設を検討した外部からの働きかけに関するきっかけ

(回答者) 企業勤務者のうち、個人的な投資経験^{※1}について「投資(口座開設)を検討したことがない」以外を選択した人

2 3 4 5

(n=5,318)

(複数回答)



※1: 企業型DCでの投資経験を除く

金融商品取引の際に重視したい情報

投資未経験者は、能動的な情報収集をあまりしない傾向

投資未経験者は、自ら能動的に情報収集する傾向が相対的に低い。

所感

投資経験者は、自ら能動的に情報収集する傾向が高く、中でもウェブサイトや新聞・書籍等の文字媒体を利用する傾向がある。

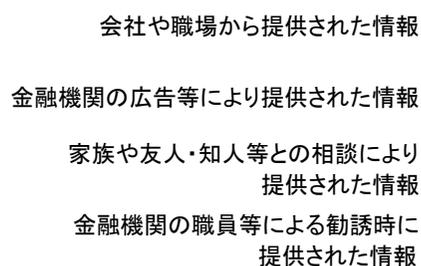
金融取引の際に重視する情報

(回答者) 企業勤務者

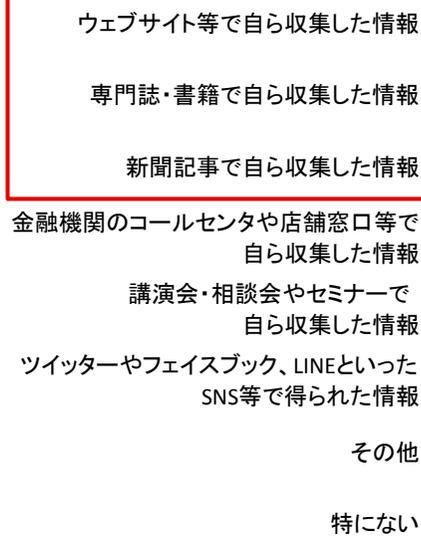
(n=8,500)

(複数回答)

受動的
情報
収集



能動的
情報
収集



■ 投資経験者(n=3,362)

■ 投資未経験者(n=5,138)

(5)

(1 2 3 4)

3. 投資を検討または開始したときの動機

投資の検討を始めるポイント

投資への入り口は2つある

1つ目の入り口

目に見える(現在の)利益の追求

- 「初めて投資する商品」では、国内株式の個別銘柄を選ぶ人が多い
- 「株主優待」など、生活に密着し、目に見える利益と結びつくと、投資を始めやすい

2つ目の入り口

老後の資産形成等に向けた (将来の)利益の追求

- 投資の検討を始める目的として、「老後のため」などの「長期的な観点」で考えている人も多い
- 長期的には、預貯金よりも期待利回りの高い資産運用が望まれる

最初に取引を開始した投資性資産

投資経験者のうち、半数以上が株式から投資を始めている

- 投資経験者の内、株式から投資を始めた人が6割近くを占める。
- 投資信託から投資を始めた人は20%程度。

所感

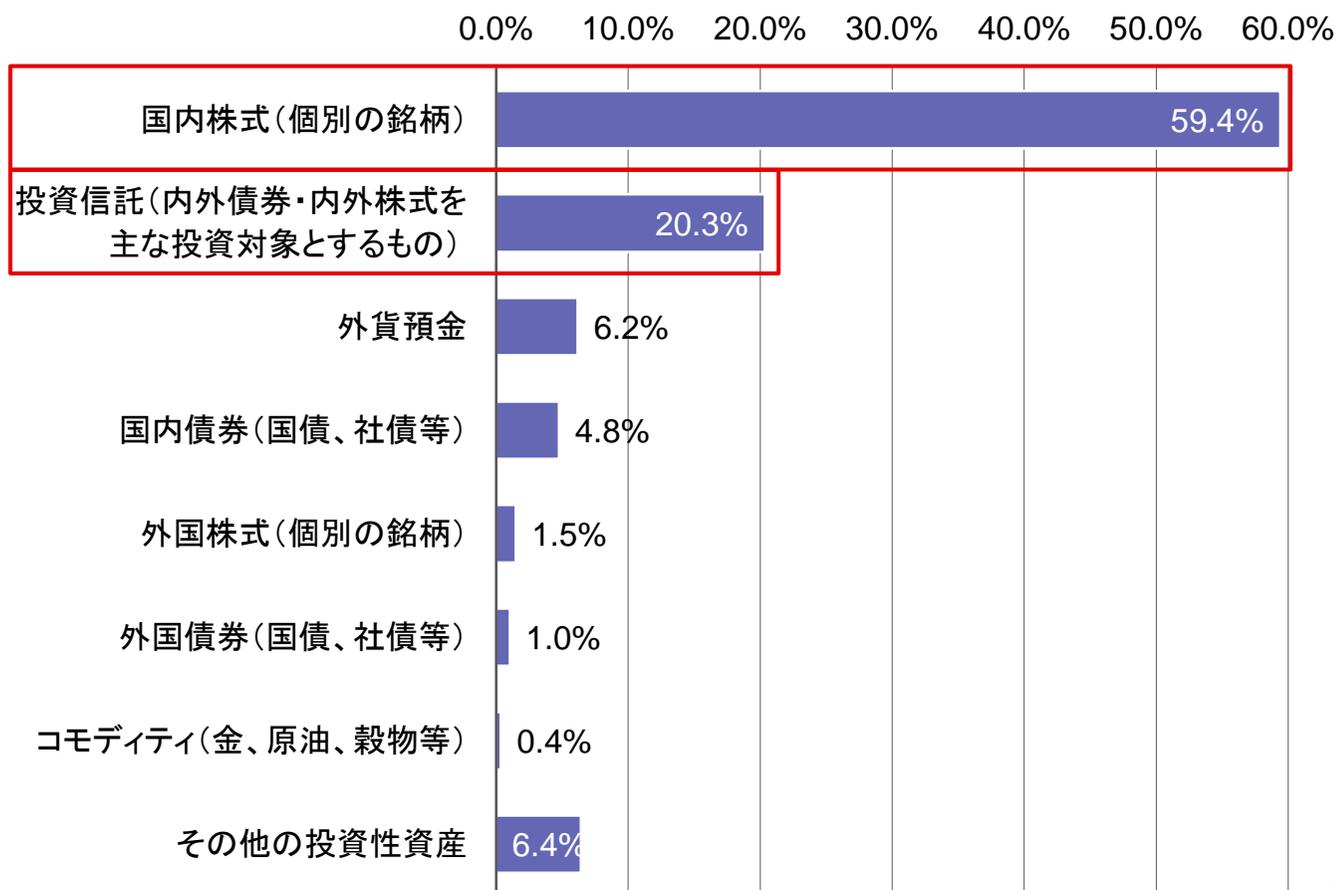
国内株式の投資対象としての「わかりやすさ」「馴染みやすさ」という側面から、初めての投資に選ぶ人が多いと考えられる。

最初に取引を開始した投資性資産

(回答者) 企業勤務者のうち、個人的な投資経験^{※1}について「開設した投資用口座で、実際に投資を実施したことがある」を選択した人 5

(n=3,362)

(単回答)



※1: 企業型DCでの投資経験を除く

口座開設を検討した目的

「老後のため」など将来を見据えた観点と、「株主優待」など現在の生活からの観点とがある

- 投資を検討または開始したことのある人たちは「長期的な観点」や「老後のため」に投資を検討した人が半数を占める。
- 投資を始める目的として、「株主優待」が20%強を占め、「短期的な利益」目的とほぼ同比率存在。

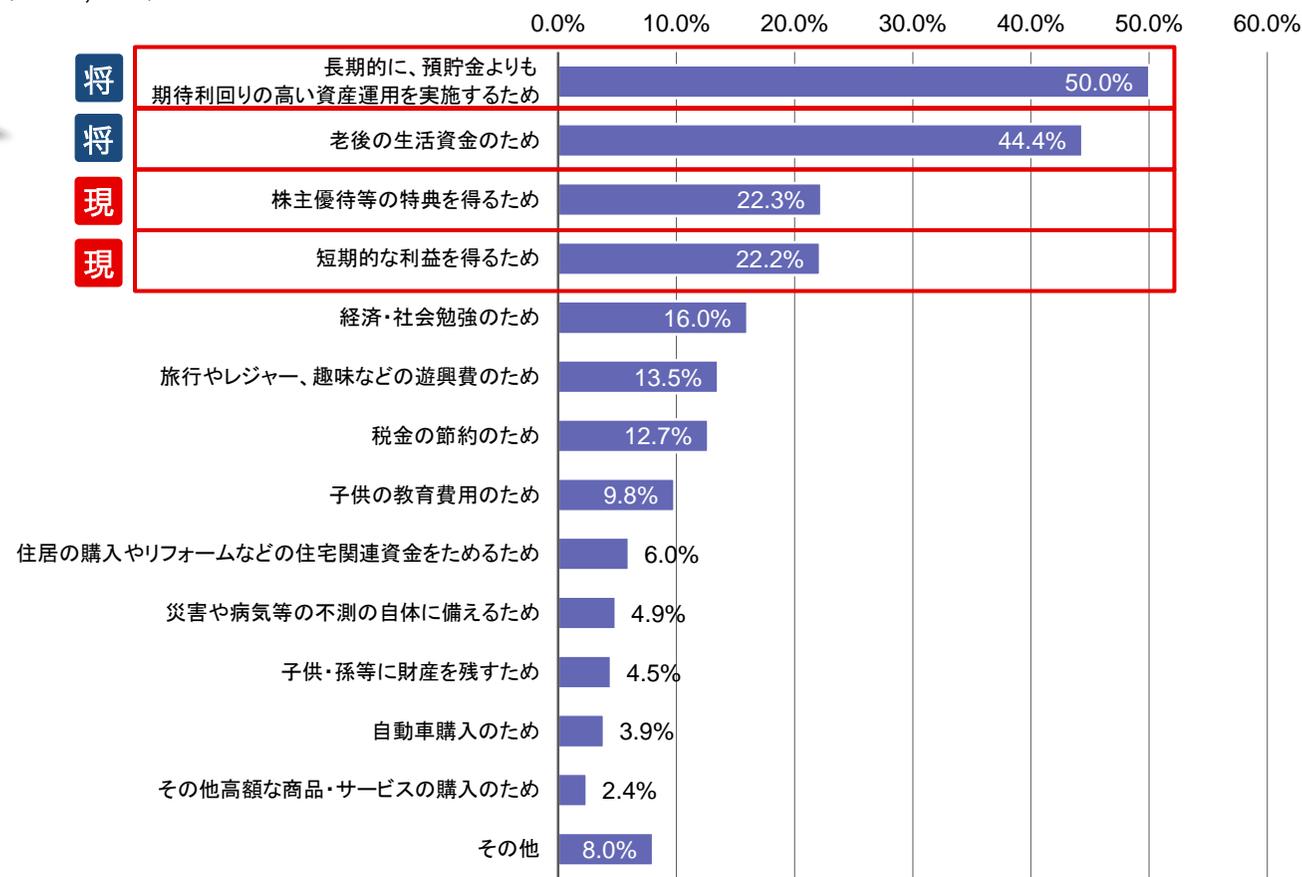
口座開設を検討した目的

(回答者) 企業勤務者のうち、個人的な投資経験^{※1}について「投資(口座開設)を検討したことがない」以外を選択した人

2 3 4 5

(n=5,318)

(複数回答)



所感

- ① 「老後の生活資金」という自分の将来生活と結びつくと、投資を検討する動機となる。
- ② 株主優待から投資を始めるのは、具体的な商品やサービスとしてイメージが持ちやすく、投資が身近なものになるため。具体的な目に見えるサービスと結びつくと、投資の敷居が低くなる。

※1: 企業型DCでの投資経験を除く

将来の利益の追求

現在の利益の追求

4. ライフイベント(子どもの教育・住宅購入・老後の生活等)と投資の関係性

ライフイベントと投資の関係性

① 自らのライフイベント（子どもの教育・住宅購入・老後の生活等）について考えている人は、資金計画を検討する傾向にある

② 投資は生活とかけ離れた「特別なこと」というイメージを持たれがちだが、実際には生活する上での資金計画の一部

③ ライフイベントのための資金計画を考えている人は、投資を検討する傾向があり、ライフイベントが投資のきっかけになっている

ライフイベント毎の金銭面での備え①

定年退職に備えて金銭面での準備をしている人は、投資の機会を活用する傾向

自分のライフプランを考えて、そのための準備として金銭面での手当てを具体的に考えているの方が、投資の機会を活用する傾向がある。

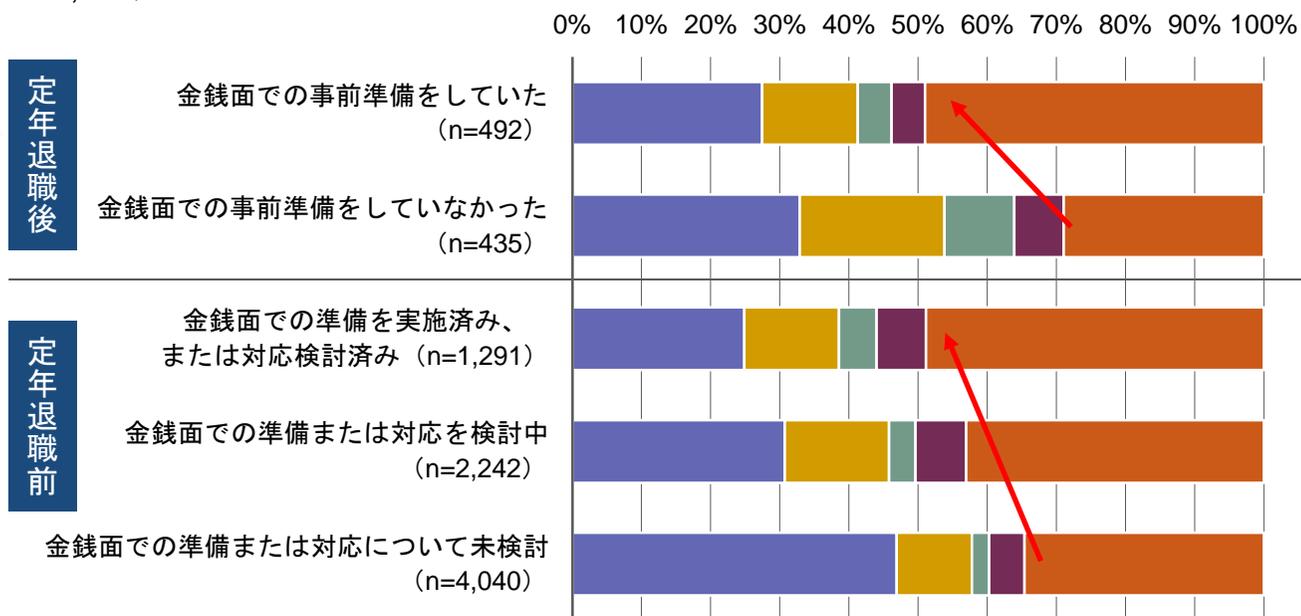
所感

ライフプランを考える中で、投資を検討する機会が多くなる。投資への関心が低い人でも、ライフイベントが資産形成を検討するきっかけになりうる。

自身・配偶者の定年退職への備えと投資実施までのステップの関係 (回答者) 企業勤務者

(n=8,500)

(単回答)



【投資実施までのステップ】(4頁ご参照)

- 投資をしようと思ったことはない・投資用口座の開設を検討したことはない
- 投資用口座の開設を検討したことはあるが、実際には手続きをしなかった
- 投資用口座の開設の手続きを開始したが、途中で止めてしまった
- 手続きを完了して投資用口座を開設したが、投資しなかった(投資していない)
- 開設した投資用口座で、実際に投資を実施したことがある

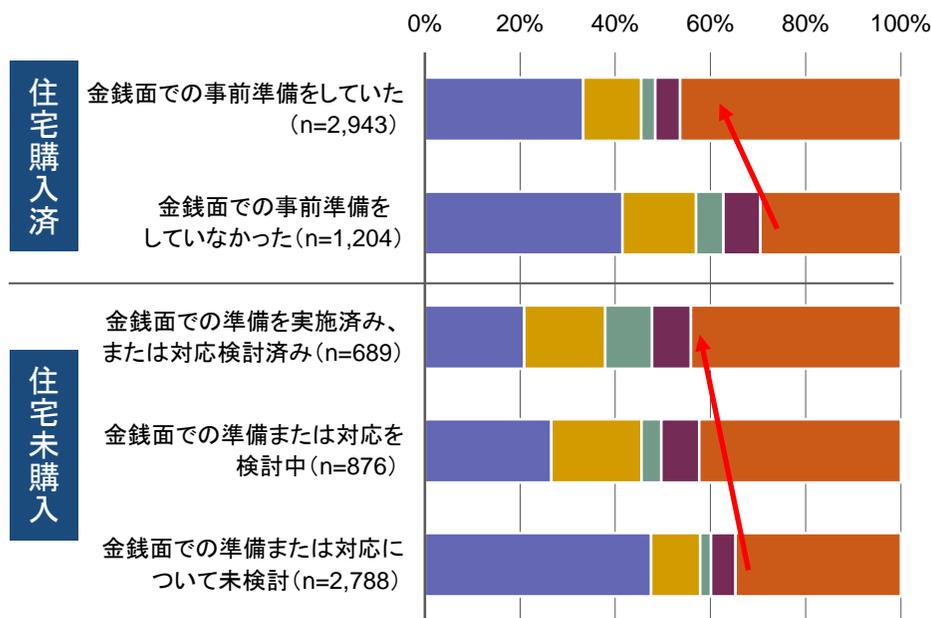
ライフイベント毎の金銭面での備え②

住宅購入・教育費についても、前頁と同様の傾向

住宅購入と投資実施までのステップの関係 (回答者) 企業勤務者

(n=8,500)

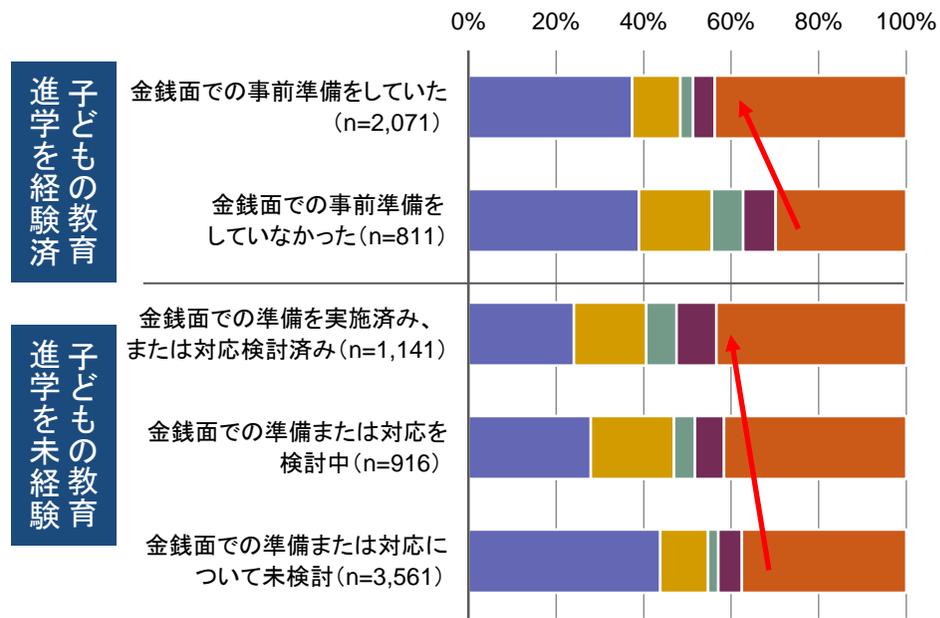
(単回答)



子どもの教育・進学と投資実施までのステップの関係 (回答者) 企業勤務者

(n=8,500)

(単回答)



【投資実施までのステップ】(4頁ご参照)

- 投資をしようと思ったことはない・投資用口座の開設を検討したことはない
- 投資用口座の開設を検討したことはあるが、実際には手続きをしなかった
- 投資用口座の開設の手続きを開始したが、途中で止めてしまった
- 手続きを完了して投資用口座を開設したが、投資しなかった(投資していない)
- 開設した投資用口座で、実際に投資を実施したことがある

5. 学習・情報収集と投資行動との関係性

学習・情報収集と投資行動との関係性

① 資産形成に関する学習経験がある人の方が、投資に向かう傾向がある



② たとえ「受動的」な学習経験であっても、投資に向かう傾向がある



③ 能動的な情報収集をする人はより投資に向かう傾向があり、投資経験者は、ウェブサイト・新聞・書籍などの「読む」媒体を重視する傾向にある

投資前学習経験の有無

投資に関する学習経験がある人の方が、投資を実施する割合が高い

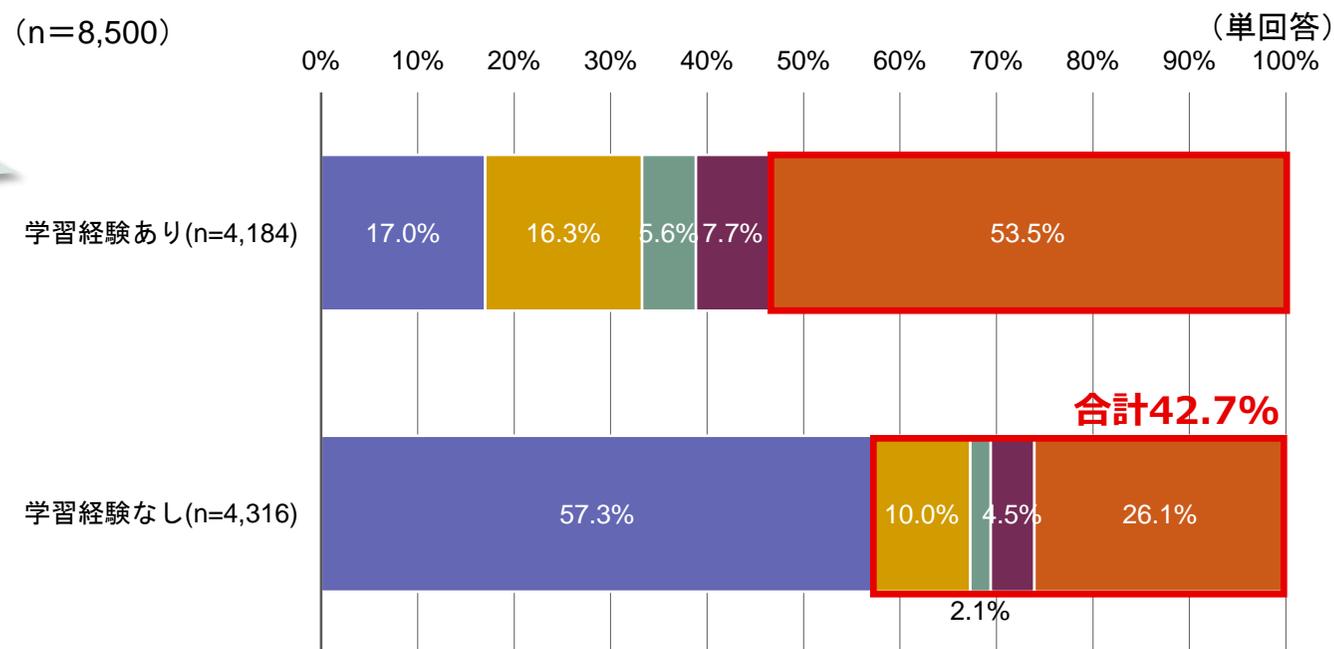
- 投資前学習経験がある人の方が、投資をする傾向がある。
- 学習をせずに、まずは投資（口座開設）の検討を始める人も4割強存在する。

所感

資産形成に関する学習をすることで、投資に向かう可能性が高まる。

投資前学習経験の有無

(回答者) 企業勤務者



【投資実施までのステップ】(4頁ご参照)

- 投資をしようと思ったことはない・投資用口座の開設を検討したことはない
- 投資用口座の開設を検討したことはあるが、実際には手続きをしなかった
- 投資用口座の開設の手続きを開始したが、途中で止めてしまった
- 手続きを完了して投資用口座を開設したが、投資しなかった(投資していない)
- 開設した投資用口座で、実際に投資を実施したことがある

金融商品売買時に重視する情報

投資経験者は、ウェブサイト・新聞・書籍・雑誌などの「読む」媒体を重視

① 投資経験者は、ウェブサイト・新聞・書籍・雑誌などの「読む」媒体を重視する。

② 金融機関や職場、家族や知人からの情報提供は、投資を始めるきっかけとなっている。

所感

「聞く」だけでなく、「読む」媒体の活用が重要視される。

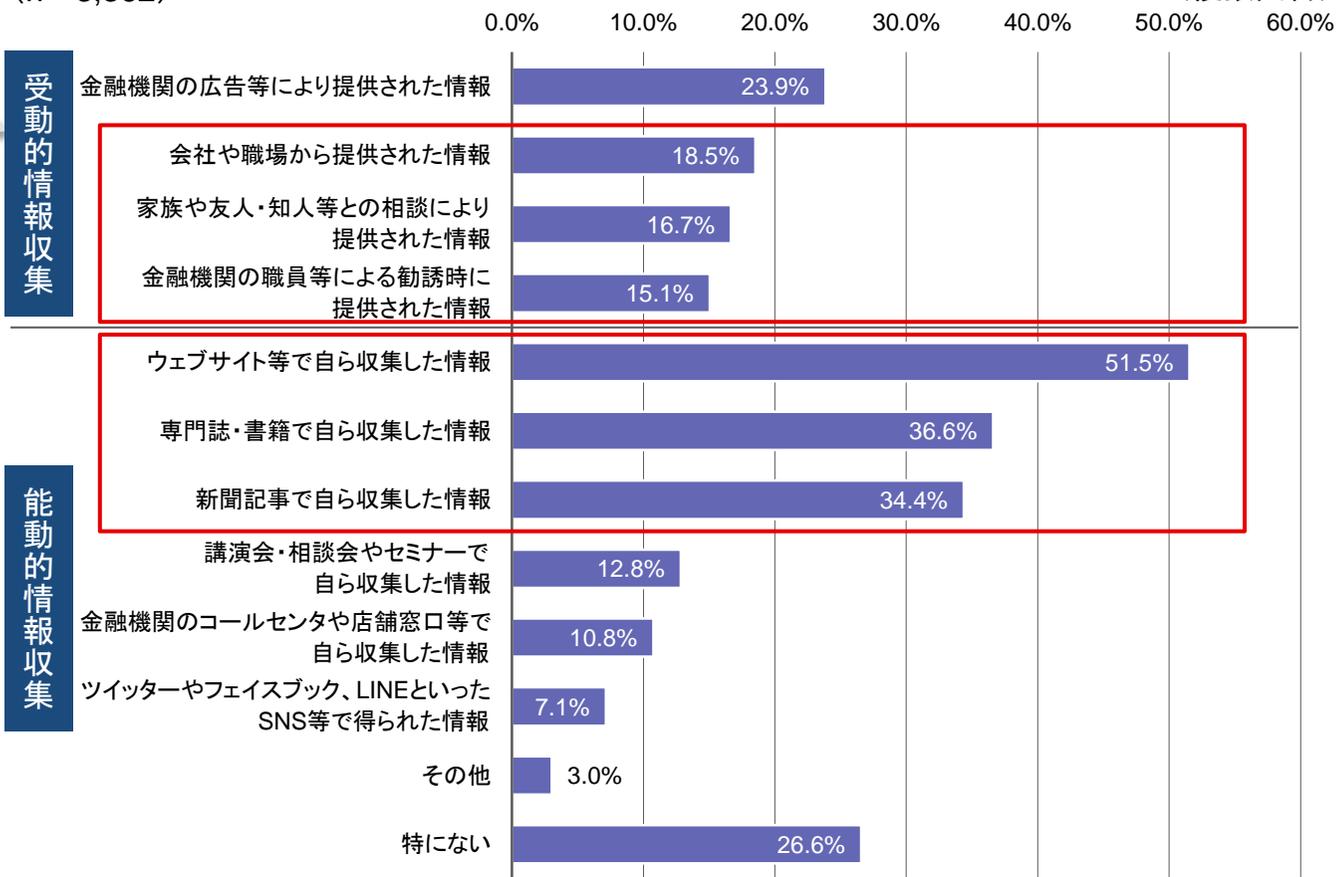
金融商品売買時に重視する情報

企業勤務者のうち、個人的な投資経験^{※1}について「開設した投資用口座で、実際に投資を実施したことがある」を選択した人

5

(n=3,362)

(複数回答)



※1: 企業型DCでの投資経験を除く

金融商品売買時に重視する情報

受動的にでも情報収集する人は、投資を実行する傾向が高まる

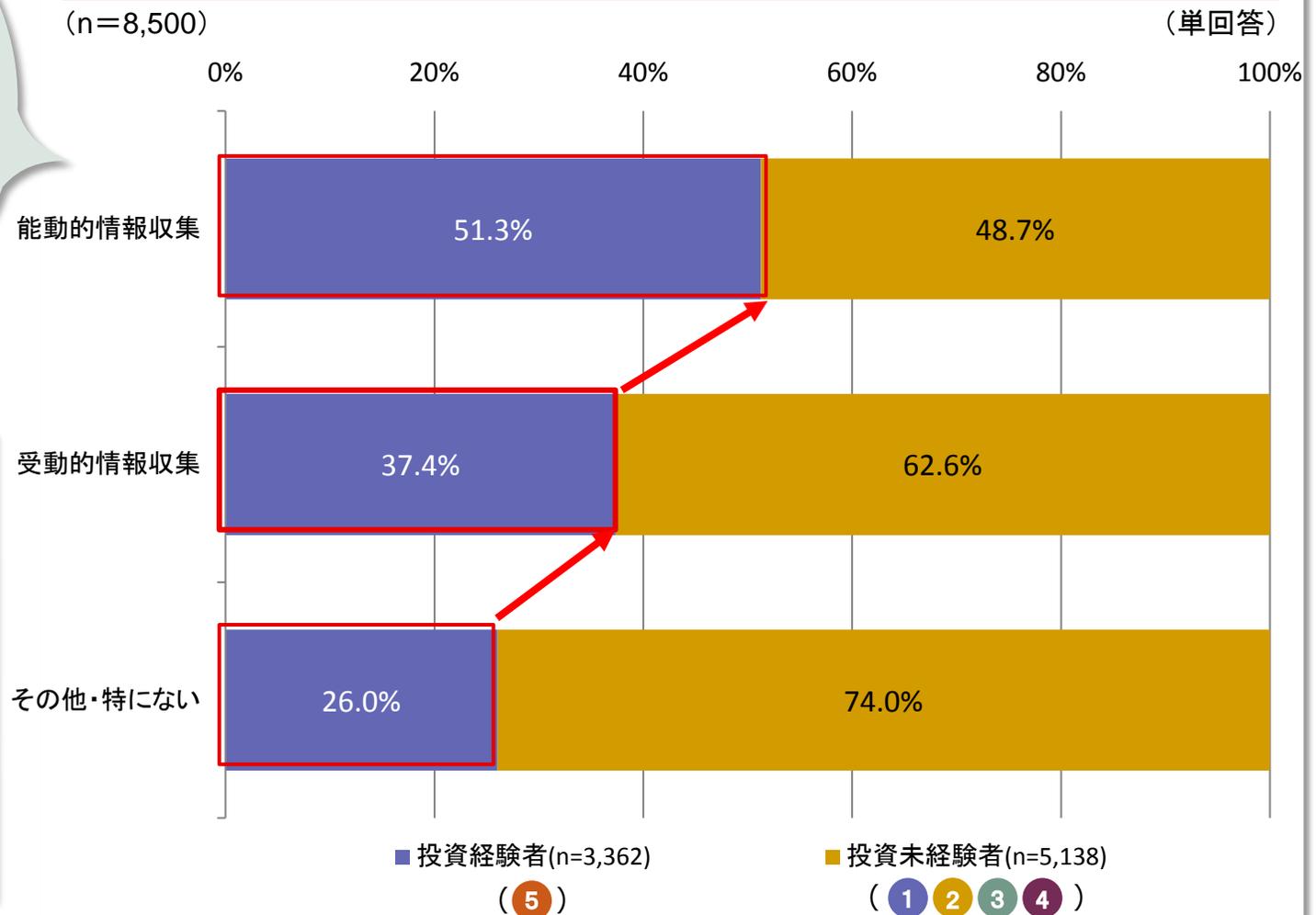
能動的に情報収集した方が投資に向かう傾向は高いが、何も情報収集をしないよりは、受動的にでも情報を得た方が投資へ向かう傾向が高まる。

所感

人から話を聞いて興味を持つと、自ら調べて納得したいと思うようになる。投資に関しても、受動的に情報を得ることを繰り返すことにより、能動的に情報収集する意識を醸成することができるのではないかと。また、興味がない人(=能動的に情報収集しない人)に対しては、受動的にでも情報をインプットすることで、投資への興味が高まると思われる。

金融商品売買時に重視する情報

(回答者) 企業勤務者



ライフプランや経済理論・金融商品等への関心

6割の人がライフプランや経済理論・金融商品等への関心があると回答

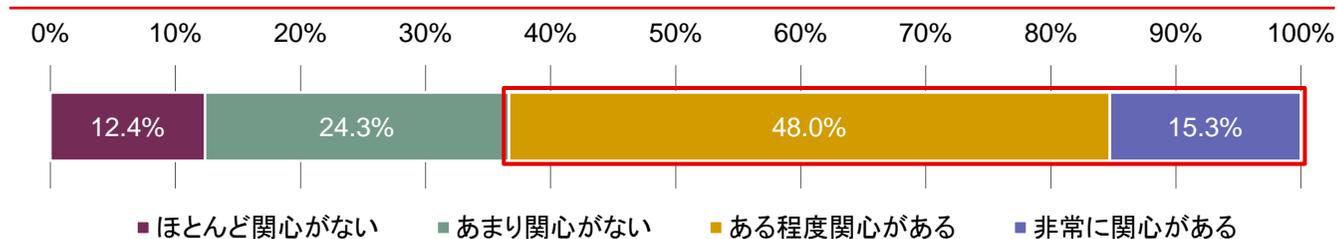
6割の人たちが、

- 「ライフプランに基づく生活設計」
 - 「経済理論の理解」
 - 「金融商品の知識習得」
- について「関心がある」と回答

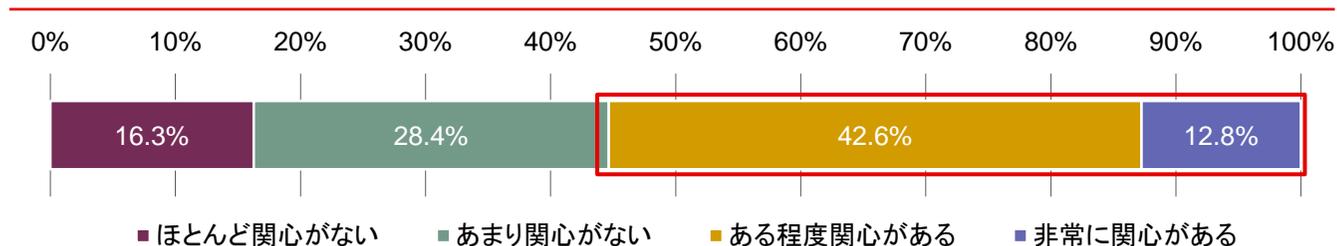
所感

- ① これらのテーマは資産形成と関わるテーマであり、関心がある人が半数以上。
- ② 自分自身の資産形成に興味を持てば、学習意欲が生まれる可能瀬が高まる。

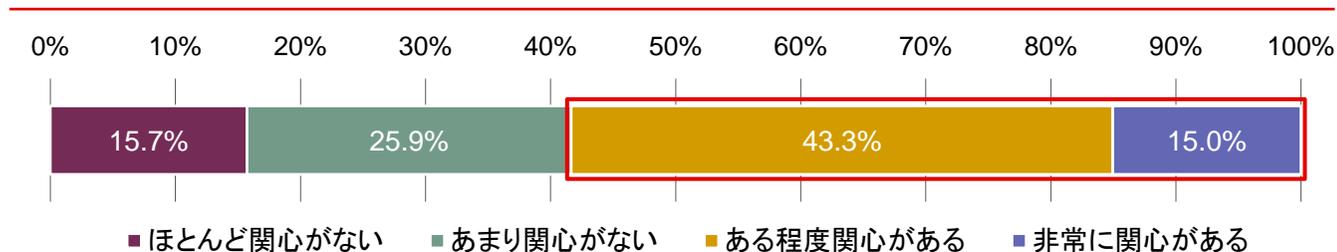
自身のライフプランを基にした生活設計



資産運用等に関する経済理論の理解



金融商品等の知識習得



(回答者) 企業勤務者 (n=8,500)、それぞれ単回答

6. インターネットやスマホのアプリと投資の関係性

インターネットやスマホのアプリと投資の関係性

① 投資を検討するきっかけとして、「インターネット」の果たす役割は大きい。

② 金融商品売買時は、「新聞・書籍・雑誌」よりも「ウェブサイト」の情報が重視される傾向にあり、お金に関するスマホアプリの活用により、投資への意識が高まる

③ インターネットの利便性やスマホアプリの活用が投資に繋がる

投資口座開設を検討したきっかけは？（外部環境の変化に関して）

「インターネット取引の利便性の向上」の比率が高い

- 投資を検討したきっかけとして、「インターネット取引の利便性向上」の比率が高い。
- 市場環境・相場の変化、優遇税制なども一定比率存在する。

所感

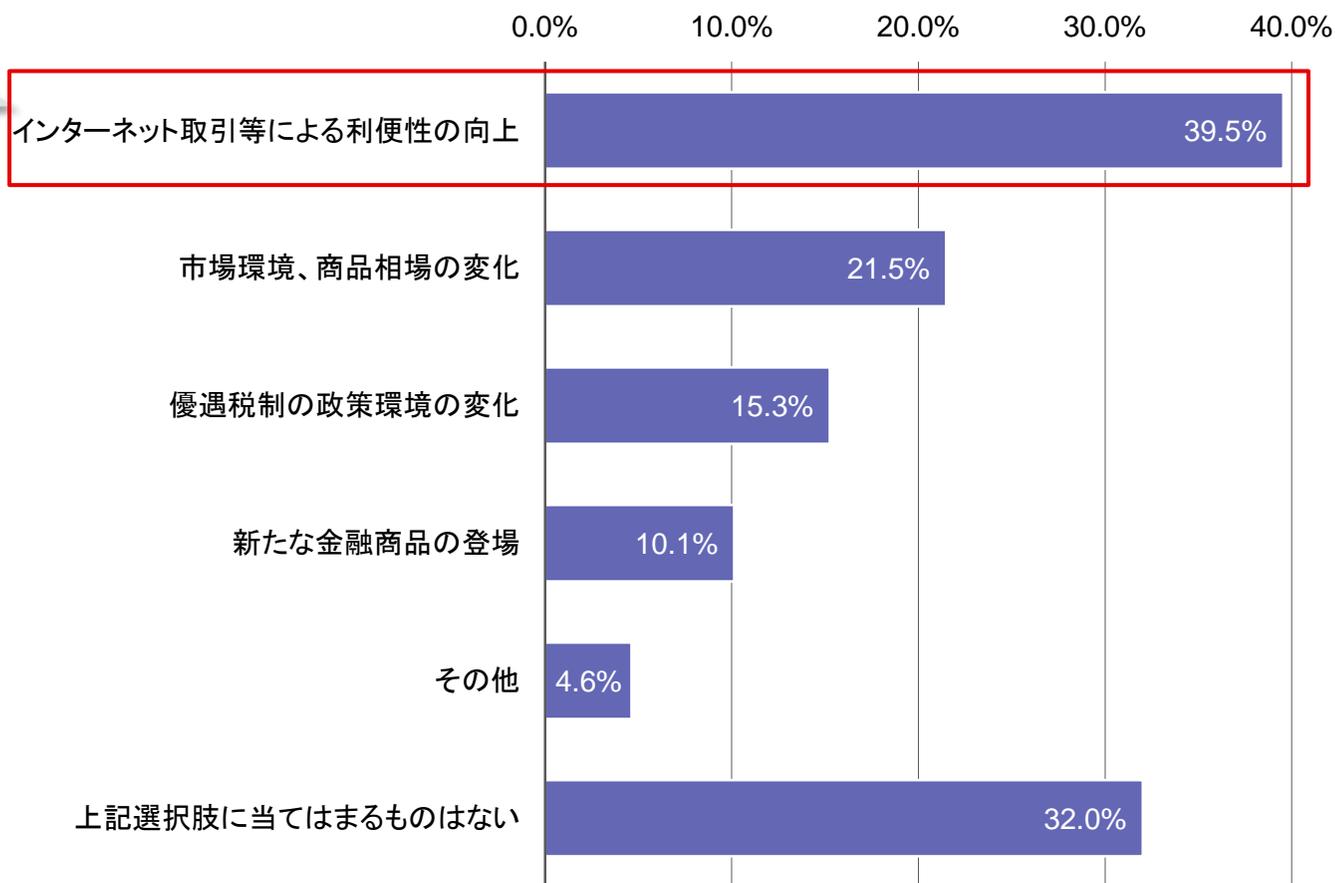
インターネットによるアンケートであることを考慮に入れても、インターネットが、学習材料の入手や手続き面でのハードルを下げることに一定の貢献をしていると考えられる。

投資口座の開設を検討した外部環境の変化に関するきっかけ （回答者）企業勤務者のうち、個人的な投資経験^{※1}について「投資（口座開設）を検討したことがない」以外を選択した人

(n=5,318)

2 3 4 5

（複数回答）



※1: 企業型DCでの投資経験を除く

金融商品売買時に重視する情報

ウェブサイトですら能動的に収集した情報を重視

- 金融商品の売買時には、能動的に収集した情報を重視する傾向。
- 媒体として、「ウェブサイト」が、「新聞・書籍・雑誌」を上回る。

所感

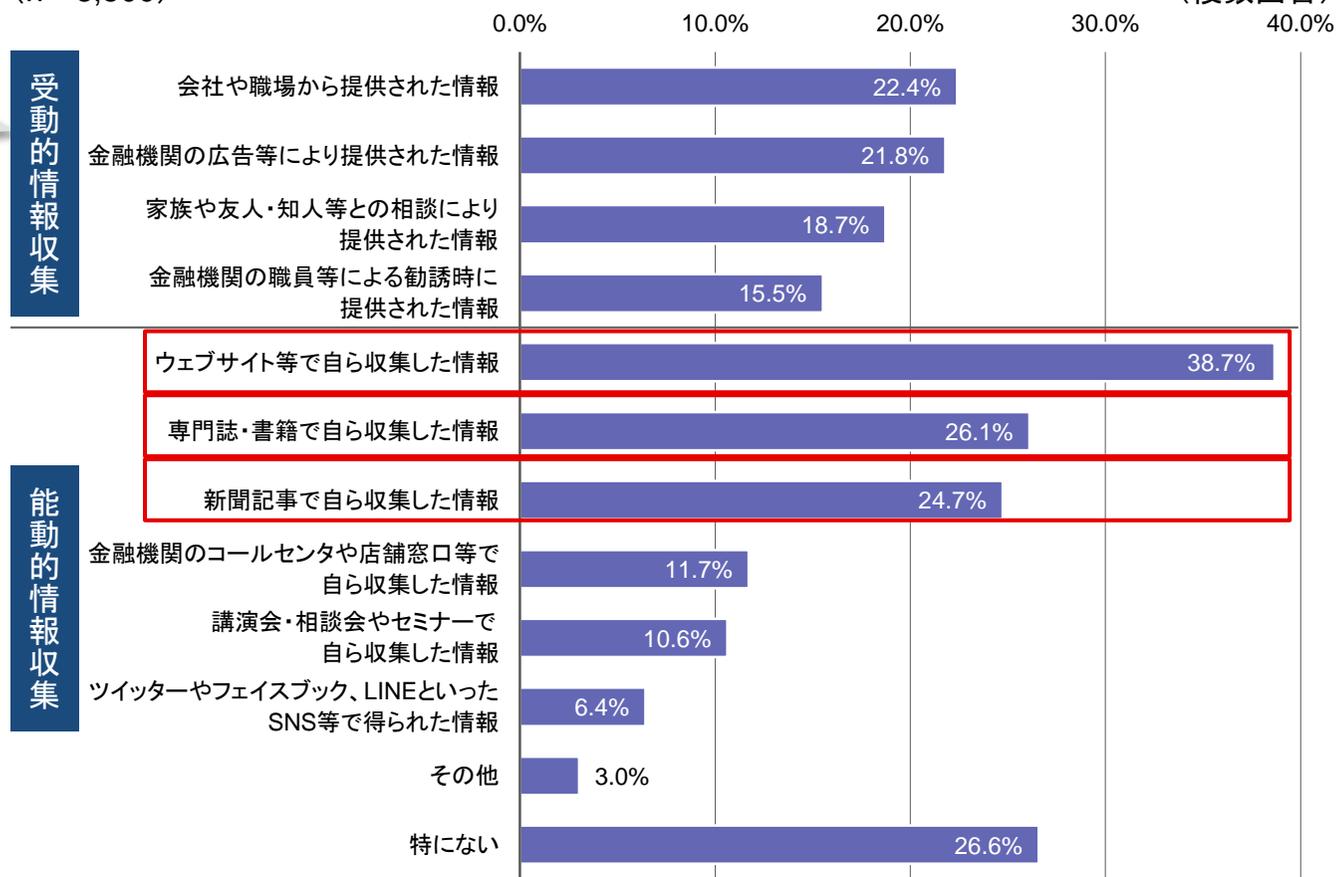
資産形成の分野でも、情報収集する媒体としてのインターネットの重要性を再認識できる。

金融商品売買時に重視する情報

(回答者) 企業勤務者

(n=8,500)

(複数回答)



自身のスマホに入れているお金関連のアプリ

投資経験者の約6割は、お金関係のアプリを使用

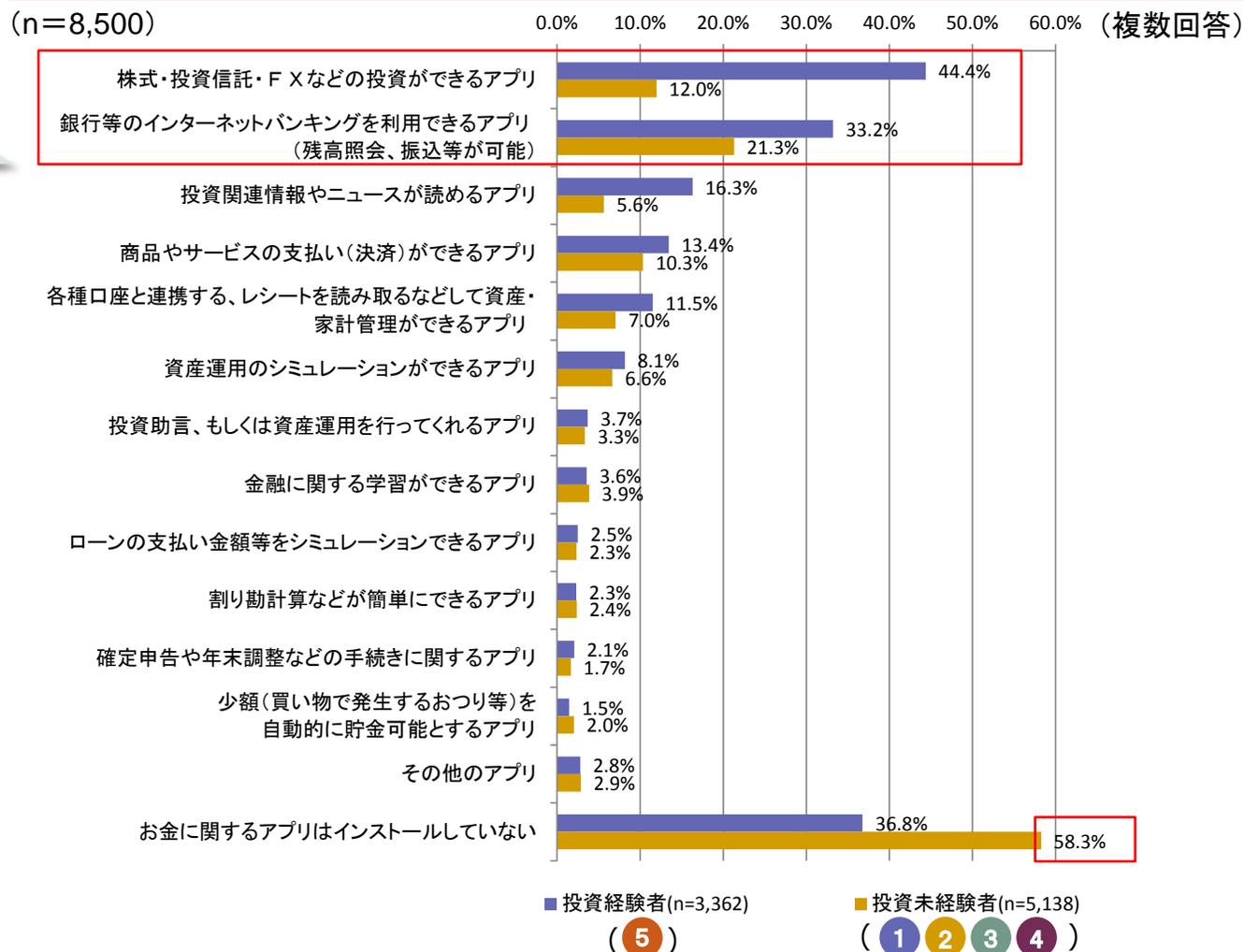
- 投資ができるアプリ・インターネットバンキングを利用できるアプリを活用している人は、相対的に投資をしている。
- 投資未経験者の6割は、お金に関するアプリをインストールしていない。

所感

投資関連アプリの利用は、投資に対する関心の高さを表す。
 お金関連のアプリが活用される余地はまだあると考えられ、アプリの利用が広がれば、投資に繋がる可能性が高まると思われる。

自身のスマホに入れているお金関連のアプリ

(回答者) 企業勤務者



自身のスマホに入れているお金関連のアプリ

投資情報やニュースが読めるアプリを活用している人の多くが投資をしている

投資情報やニュースが読めるアプリの利用者の約65%、家計管理ができるアプリの利用者の約52%が投資をしている。

所感

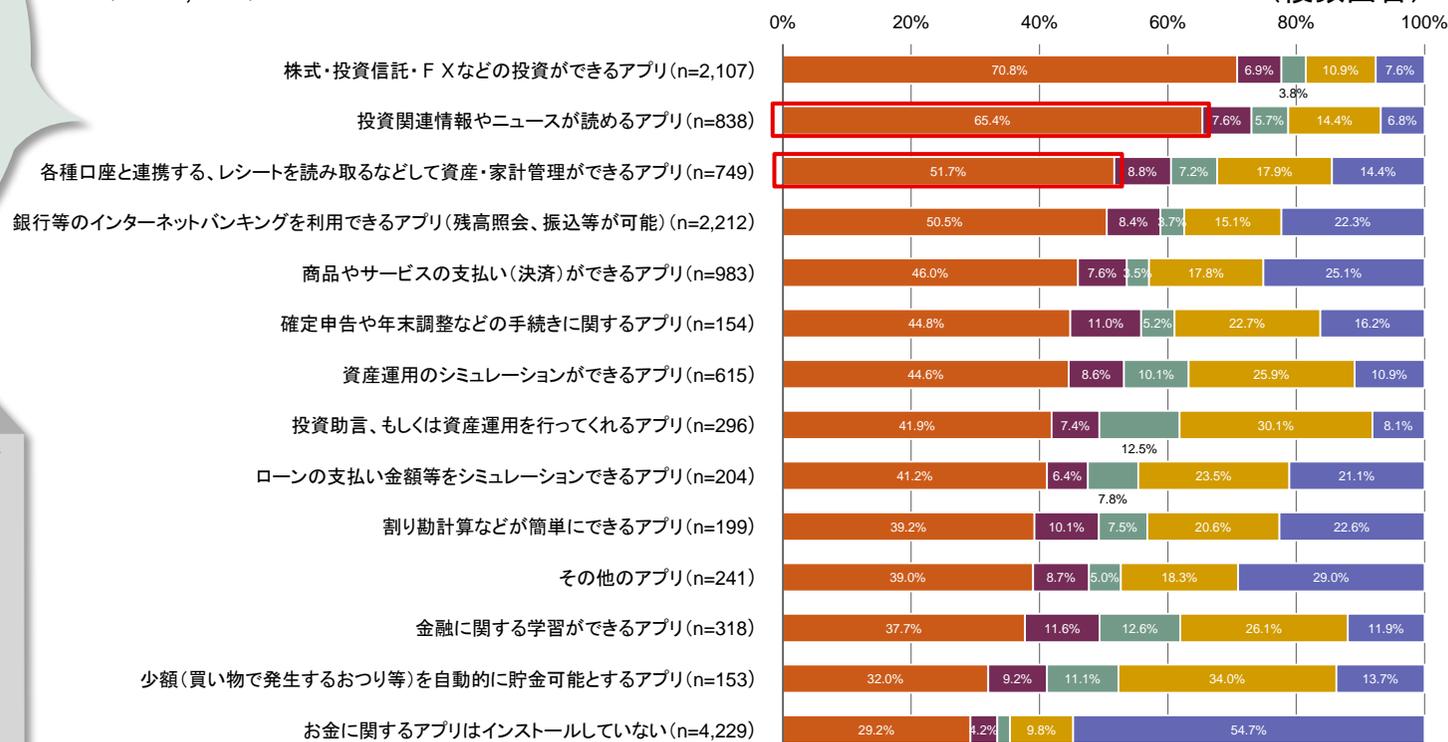
日々の生活の中で、アプリを用いてニュースからの情報を得たり、家計管理を通じて自身の資産（収支）に関心を持つことで、投資への関心が高まる可能性がある。

自身のスマホに入れているお金関連のアプリ

(回答者) 企業勤務者

(n=8,500)

(複数回答)



【投資実施までのステップ】(4頁ご参照)

- 開設した投資用口座で、実際に投資を実施したことがある
- 手続きを完了して投資用口座を開設したが、投資しなかった(投資していない)
- 投資用口座の開設の手続きを開始したが、途中で止めてしまった
- 投資用口座の開設を検討したことはあるが、実際には手続きをしなかった
- 投資をしようと思ったことはない・投資用口座の開設を検討したことはない

口座開設検討時の情報収集媒体

口座開設を検討する際には、パソコンを活用して情報収集する人の割合が高い

口座を開設しようとするときに情報収集する媒体として、パソコンを活用する比率が高い。

所感

口座開設検討時にインターネット上の情報を参照する際には、スマホではなくパソコンを利用する傾向が高い。口座開設時には、自宅で腰を据えて、より画面の大きなパソコンを用いて比較サイトを見る様子が想定される。

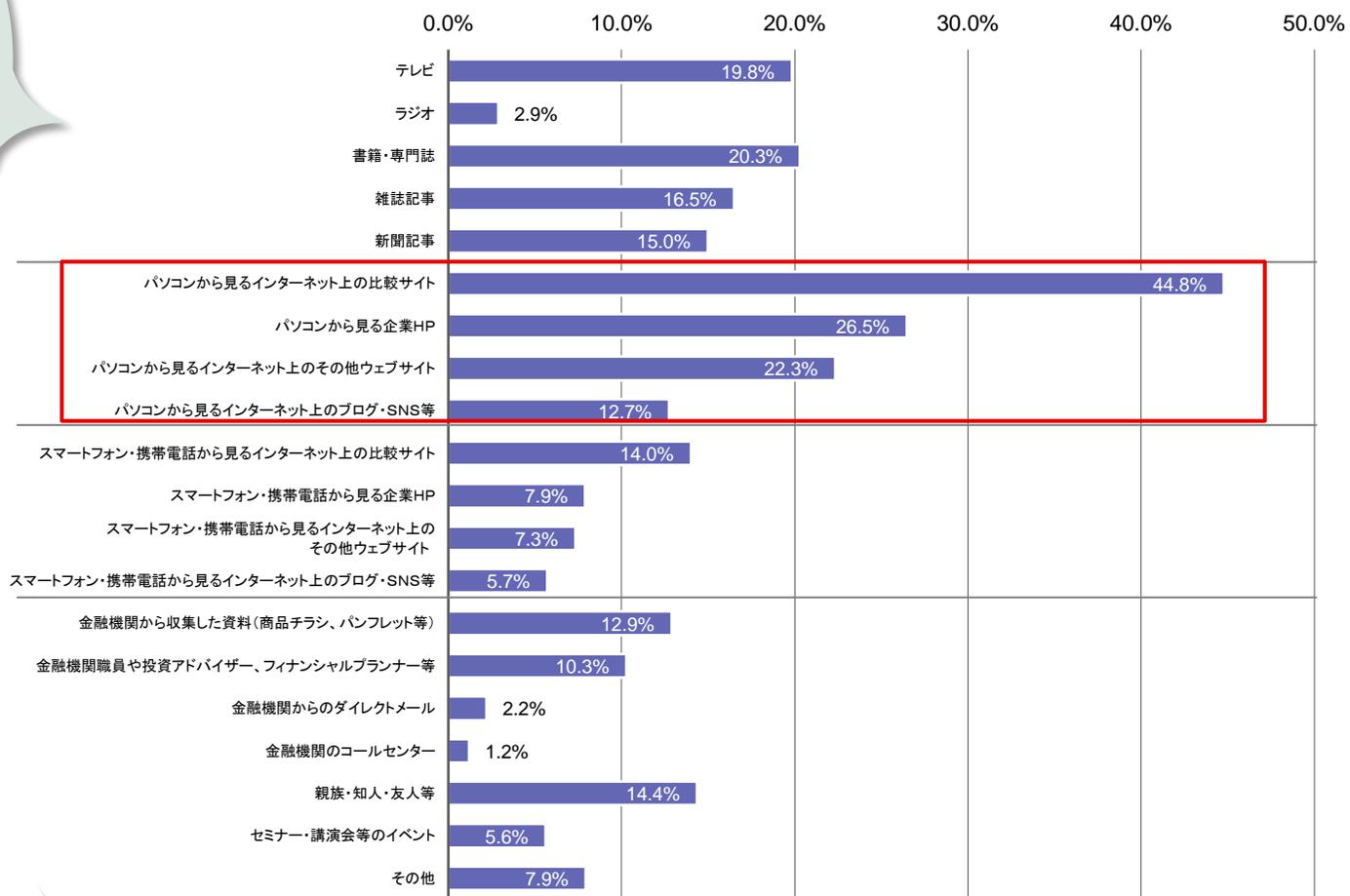
口座開設検討時の情報収集媒体

(回答者) 企業勤務者のうち、個人的な投資経験^{※1}について「投資（口座開設）を検討したことがない」以外を選択した人

2 3 4 5

(n=5,318)

(複数回答)



※1: 企業型DCでの投資経験を除く

口座開設を申し込んだが、実際の開設まで至らなかった理由

「書類を郵送するのが面倒」とした人の割合が2割を超える

口座開設手続きを始めたにもかかわらず、途中でやめてしまった理由として、「書類を郵送するのが面倒」の割合が高い。

所感

投資へのハードルを下げるには、紙の書類の郵送ではなく、インターネットで手続きを完了することが有効。

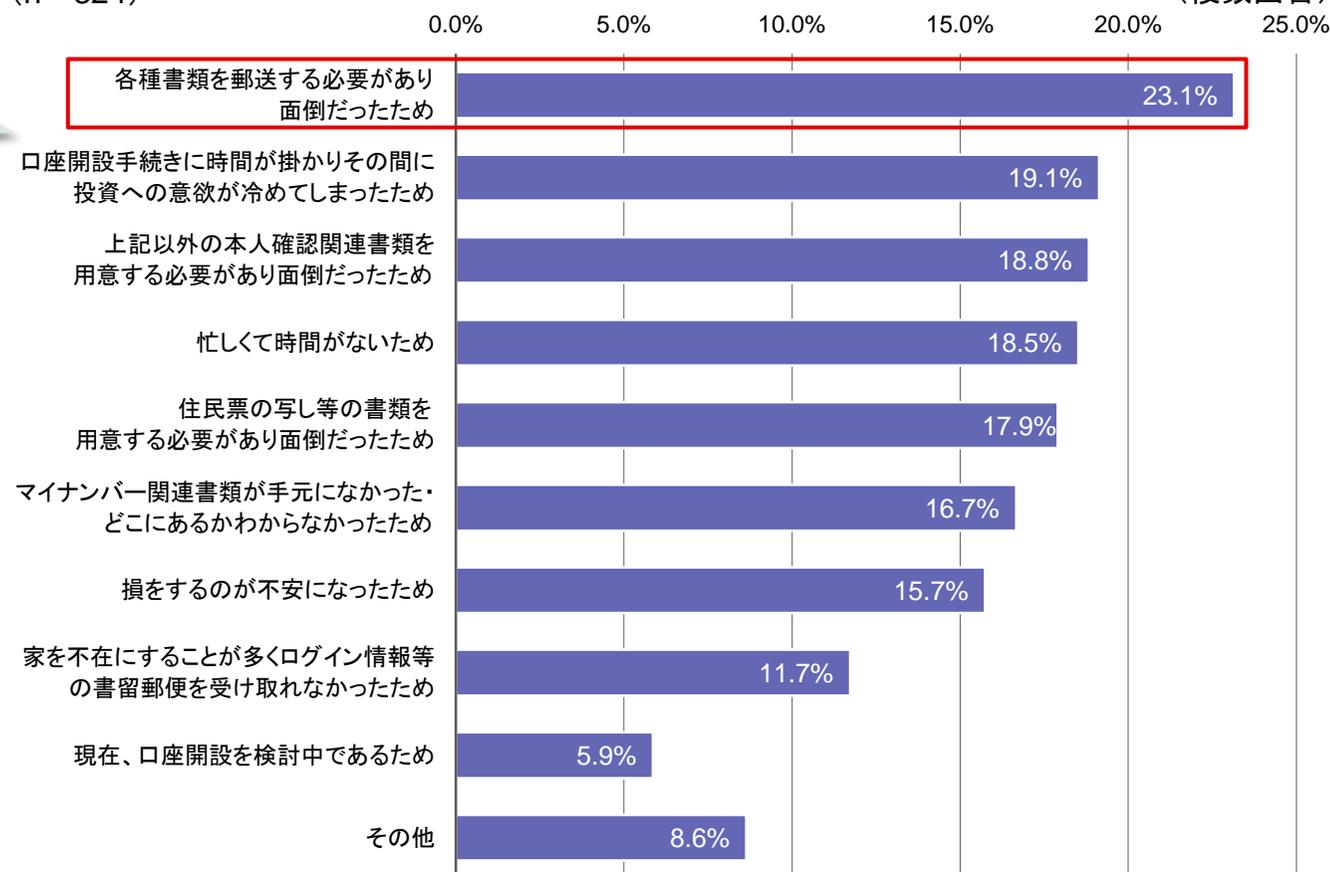
口座開設を申し込んだが、実際の開設まで至らなかった理由

(回答者) 企業勤務者のうち、個人的な投資経験^{※1}について「投資用口座の開設の手続きを開始したが、途中で止めてしまった」を選択した人

3

(n=324)

(複数回答)



※1: 企業型DCでの投資経験を除く

ご留意事項

- MUFG資産形成研究所は、三菱UFJ信託銀行が、現役世代から退職後の世代までを対象に資産形成・資産運用に関する調査・研究等の活動を行う際の呼称です。
- 本資料は情報提供を目的としたものであり、特定の金融商品の取得・勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料に掲載の情報は作成時点のものです。また、本資料は三菱UFJ信託銀行が各種の信託できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性について保証するものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、三菱UFJ信託銀行は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は三菱UFJ信託銀行の著作物であり、著作権法により保護されております。本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、三菱UFJ信託銀行までご連絡ください。

本資料に関するお問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行 資産形成アドバイザー部
E-mail : mufg-sisan_post@tr.mufg.jp

三菱UFJ信託銀行株式会社 資産形成アドバイザー一部
〒100-8212 東京都千代田区丸の内1-4-5

www.tr.mufg.jp/shisan-ken/

MUFG資産形成研究所は、三菱UFJ信託銀行が資産形成・資産運用に関する調査・研究等の活動を対外的に行う際の呼称です。